東京・杉並を流れる善福寺川を「里川にしたい」と願う人々の集まりです。
名前の「カエル」はかけことば。カエル（変える）のは川だけでなく、人や価値観も含めてのこと。そしてカエルは再生数、
川とまちを跳びまわり、自然と人々の両方にはたらきかけます。
川の環境と人の心が豊かになる社会をめざして、みんなで考え、力を合わせて行動する。それが通称「善福蛙」です。
身近な自然をみんなでカエルことが、やがて日本の元気にもつながると信じながら。

「雨天時越流水（CSO）の流出抑制」
「都市型洪水の緩和」
「GI を通した多世代共創の実現」
（グリーンインフラ）
「善福寺池の環境改善」
「都市の水辺の生物多様性回復」

雨水の流れ・基本的な考え方 ～モデルエリア断面図～

●グリーン住宅
●雨庭
●既存緑地
雨水を貯留浸透、ろ過する。

●あめ路地
●グリーン道路
雨水を貯留浸透、ろ過し、さらに低地へ導く。

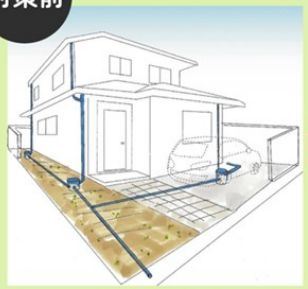
●エコトーン湿地（スポンジ湿地）
雨水がさらにろ過され、環境用水として使う。

●善福寺上池 ●遅野井川
地下水の増加、池の水も浄化され、遅野井川の水源になる。

善福寺グリーンインフラ モデルエリア プラン

善福寺グリーン住宅＋雨庭

対策前



●建物……全部流出（樋と雨水桝直結）
●前庭……5mm/hr 浸透（通路や駐車場）

敷地に降った雨→ 99% 流出

対策後

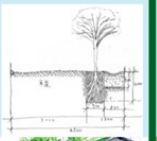
●建物……流出 50%削減
（樋 50% 切る、25% は前庭へ、25% は浸透トレンチへ）
●前庭……100mm/hr 浸透（緑を増やす・あめにわ）

敷地に降った雨→ 約 60% カット

善福寺グリーン道路

（等高線に沿った道路）

通常は歩道として利用。
雨水を捕捉し、ろ過します。
砂利層に蓄えられる量を越えると、小川として流下します。
▶▶▶あめ路地へ



善福寺あめ路地

（坂を下りる、谷地道路）

路地のアスファルトの一部をカットして浸透側溝に。
雨水を捕捉し、ろ過します。
砂利層に蓄えられる量を越えると、小川として流下します。
▶▶▶善福寺池へ

エコトーン湿地

雨水が斜面を下って、最後にたどり着くのが池の周りの浅い湿地帯です。水辺の湿地帯は、雨水を浄化し、様々な生き物たちに、棲息、繁殖、採餌などの場所を提供し、生物多様性向上に大きく貢献します。

スポンジ湿地・水辺の植生帯イメージ

小さな自然再生

川底の環境を再生するために「小さな自然再生」を行なっています。

変わってしまった川底の環境を再生するために「小さな自然再生」の実験を行なっています。「パープ工」と呼ばれる石積みを川底に並べて、川の流れを変えることで、溜まったしまった砂や土砂を下流へと押し流します。

市民によるモニタリング

善福寺川上流部で、毎月「川しらべ」を実施しています。
本流と湧水の水質調査、川幅や水深、流速を記録し、川に棲息する生き物の調査を行っています。参加者は幼児から学生～大人まで、多様なメンバーで構成されています。